

ワールドワイド携帯電話四半期動向

2014年8月11日報告

2014年2Qの世界の携帯電話市場概況

加入者数推移

4-6月期のグローバルの新規加入件数は前期を大きく下回った。入手した公表データでは欧州の過半のオペレータ、中国 China Telecom は前期末の累積加入件数を割り込んだ。下半期以降も新規加入が増加に転じる可能性はなく、累積ベースの頭打ち状況が続くものと想定される。方式別では4GのLTEが2Qで急速に新規加入を伸ばした。2QではChina Mobile 1社で1,000万件以上の新規加入を増やし、加入の増加に貢献した。下半期は西欧地域やFDD LTEの認可を獲得した中国競合2社がLTEの新規加入を牽引するものとみられる。

端末需要

2Qは上位3社（Samsung、Nokia/Microsoft、Apple）が販売台数を大幅に減らしたため、グローバルでの全販売台数は前期1Q水準を割り込んだ。Samsungはフラグシップ Galaxy S5の不調が伝わっており、同社のSmart Phone戦略の見直しに発展する可能性もある。同社は完成品部門の一元化など事業戦略の再構築を検討し始めた。Nokia/Microsoftも端末部門の大規模リストラ、Windows phone OSへの一本化方針を表明しており、Samsung以上に回復には時間を擁するものとみられる。

既存大手に替って2Qでは中国メーカーの健闘が目立った。LenovoとHuaweiがLGより上位の位置を占め、LG以下にはTCL、Xiaomi、ZTE、Coolpadなど中国メーカーが上位を形成した。

Smart Phoneでは新興メーカーXiaomiが内需を背景に5位にランクアップした。中国メーカーが好調な背景は旺盛な国内需要がある。グローバルに占める中国の地域シェアは端末全体で27%、Smart Phoneでは37%前後を占めており、中国国内の競争力がそのままグローバルに反映されたことになる。中国ではSamsung時代が終焉を迎え、Huaweiを筆頭とした中国メーカーに勢力図が移行するとの見方が出始めた。グローバルにおける端末補助金の削減が価格競争力をもつ中国メーカーに優位に働き、今後は新興国がSmart Phoneをリードするとの予想がパラダイムシフトの論拠になっている。

一方ハイエンド分野で競争力をもたず、ブランド力がグローバルで浸透していない現状、あるいはXiaomiのビジネスモデルが必ずしも海外では成功していない実態からグローバルでの市場支配に否定的な見解もある。

2014年2Q(4-6月)調査結果 目次

1	2014年2Q (2014年4-6月) 結果の 要約	3	7	端末販売動向推移	22
2	7-9月の出荷、販売見通し	4	7.1.	2014年2Q端末販売動向	22
3	地域別累積加入推移(四半期別)	6	7.2.	有力14社の携帯電話販売台数推移	25
4	方式別加入推移(四半期別)	9	7.3.	2014年2QのSmart Phone販売動向	26
5	年加入推移と2014年予測	12	8	2014年販売台数予測	28
5.1.	地域別	12	9	主要メーカーの2014年2Q動向	30
5.2.	方式別	13	9.1.	Samsung	30
6	主要オペレータ加入者推移(163社 集計)	14	9.2.	Microsoft(Nokia)	34
6.1.	アジア	14	9.3.	Apple	36
6.2.	西欧	15	9.4.	LG	38
6.3.	東欧	17	9.5.	ソニーモバイル	40
6.4.	北米	18	9.6.	Motorola Mobility	42
6.5.	中南米	19	9.7.	Blackberry	43
6.6.	中東/アフリカ	20	9.8.	HTC	44
6.7.	主要オペレータ加入者数推移の世 界全体に占める推定比率	21	9.9.	中国メーカー動向(Huawei、Lenovo、 ZTE、Xiaomi)	45
			9.10.	その他端末メーカー動向(Amazon、 Pantechほか)	46
			10	端末各社の出荷計画	47